

## 横浜市大がアカデミア初の MID-NET 利活用を開始

横浜市立大学は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（以下、PMDA）が運営する大規模医療情報（電子カルテ、検査値、レセプト等）データベース「MID-NET（Medical Information Database Network）」※<sup>1</sup>の利活用が承認されたことを受けて、MID-NET を用いた医療情報データベース研究を開始します。アカデミアが MID-NET を利活用するのは初めてとなります。

本研究は、本学医学部やデータサイエンス学部のデータサイエンス専門家、および帝京大学、千葉大学、公益財団法人沖中記念成人病研究所、東京女子医科大学の研究者との共同研究により実施されます。本研究は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（以下、AMED）平成 30 年度「医薬品等規制調和・評価研究事業（2 次公募）」に採択された研究課題「アカデミアによる医療情報データベース研究における MID-NET 利活用に関する研究（研究代表者 山中竹春）」に基づき、実施されるものです。

【国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）平成 30 年度「医薬品等規制調和・評価研究事業（2 次公募）」】

科学的合理性と社会的正当性に関する根拠に基づいた審査指針や基準等の策定、あるいは最先端の技術を活用した医薬品、医療機器等に係る評価法開発を実施し、世界に先駆けた国際規格・基準の策定の提案等を目指す事業です。

AMED WEB サイト [https://www.amed.go.jp/koubo/06/02/0602C\\_00002.html](https://www.amed.go.jp/koubo/06/02/0602C_00002.html)

事業年度：平成 30 年度～32 年度（3 年間）

補助金額：初年度 15,400 千円

### ■本研究のポイント

- （1）医療情報データベース MID-NET に関するアカデミア初の利活用
- （2）アカデミアが実施する研究により、MID-NET 利活用にあたってのノウハウや留意点を取りまとめることを目標とする

### ■本研究の概要

本研究は経口抗凝固薬の使用に関する実態調査を行い、薬剤の用量調整と脳卒中予防・出血性合併症との関連を明らかにすることを目的としています。これまでワーファリンや DOAC（Direct Oral Anticoagulant）の適正用量を明らかにした大規模な研究はなく、今回、MID-NET が保有する過去 10 年分のデータを用いた研究を実施します。脳卒中予防や出血性合併症に関するリスク因子についても検討を行う予定です。

#### （1）研究課題

経口抗凝固薬の適正用量の実態調査及び脳卒中との関連性の検討

#### （2）研究対象

以下のいずれかの疾患を有し、ワーファリンまたは DOAC を処方された患者

（ア）心房細動

（イ）下肢および深部静脈血栓症・肺塞栓症

#### （3）研究実施予定期間（AMED の研究期間に準ずる）

2019 年 1 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

#### (4) データ抽出の期間

2009年1月1日～2018年12月31日（過去10年分）

#### ■研究の実施体制

- ・横浜市立大学 山中竹春 教授
- ・横浜市立大学 田栗正隆 准教授
- ・横浜市立大学 山本紘司 准教授
- ・横浜市立大学 窪田和巳 助教
- ・横浜市立大学 三角俊裕 助教
- ・横浜市立大学 三枝祐輔 助教
- ・帝京大学 飯室 聡 教授
- ・東京女子医科大学 花房規男 准教授
- ・千葉大学 吉村健佑 特任講師
- ・公益財団法人沖中記念成人病研究所 桑原政成 研究員

※1 MID-NET<sup>®</sup> は、PMDA が運用する、400万人規模の医療情報のデータベースシステムおよび関連ネットワークの総称です。日本の10拠点23病院からなる Real World Data を活用した薬剤疫学的調査を通じて、医薬品の効果的な安全対策を促進するために構築されました。平成30年度より本格運用が開始されています。

**YCU**  
横浜市立大学

<b>お問合せ先</b>
医学部 臨床統計学教室 堀尾・嶋田
Tel: 045-787-2572
<a href="mailto:resbios@yokohama-cu.ac.jp">resbios@yokohama-cu.ac.jp</a>